

平成27年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・建学の精神「感恩」の実践、校訓「明朗・友愛・誠実」を生かした校風を確立する。
- ・基本的な生活習慣が身に付き、すぐれた教養と学力をそなえた生徒を育てる。
- ・感謝の心を持った豊かな情操をはぐくみ、自立心のある人の育成を図る。

2 中期的目標

1 教育の質の向上

(1) 授業の質の向上

授業アンケートや公開授業等を活用し、授業の質の向上を目指す。

授業アンケートでは、総体平均72点(平成26年度)を、今年度73点にすることをめざす。平成30年度には75点を目標とする。

(2) 4コース体制の充実と見直し事項の検討

平成25年度より始まった4コース制(特別進学Ⅰ、特別進学Ⅱ、進学、保育進学)について、前年度の反省を生かしつつ、教育内容をより良いものにしていく。4コースがそろそろ平成27年度2学期以降にはコース内容の見直しを含め、教育課程の検証も実施する。

(3) 課外活動・クラブ活動の充実

課外活動を充実させ、昨年度のクラブ入部率42.3%を48%以上となることを目指す。平成28年度以降は50%以上を目標とした。

(4) 進学実績の向上

特別進学Ⅰコースを中心に、特別進学Ⅱコースからの合格者も合わせて、関関同立と産近甲龍50名の合格をめざし、平成28年度以降堅持できるようにする。

(5) 学園総合力の向上

併設の大学、短期大学、幼稚園との連携を密に、本学園ならではの総合力教育を発展させる。具体的には大学、短期大学との連携で進路意識を高めるプログラムを実践し、保育進学コースについては、短期大学教員による週1時間の保育に関する知識、技能を身につける授業を実施している。また併設幼稚園では、複数回保育実習を実施している。各試みに関しては、実施後検証を行い、年度を重ねる中でより充実させる。

2 組織拡充

教育力の向上と積極的な広報活動により、平成30年度に向けて生徒数1,000名を堅持できるようにする。

3 教育環境の充実

校内生活および学習環境の整備

平成26年度に高校1号館の耐震化を実施。今年度は高校新校舎建設に向けて高校2号館を解体する。

また日常生活の中で省エネ教育を実践する。

4 地域貢献 社会に必要とされ、愛される学園

(1) 全校生徒を対象とした地域周辺の美化活動の実践を継続する。

(2) 地域主催行事へ積極的に参加する。具体的には市民フェスティバルなどのイベントへ積極的に参加する。

平成27年度には、本校教員が担当する歴史・理科の市民講座を実施予定。また卓球・バレーボールの種目で、地域のこどもたち参加のスポーツ教室も実施を予定している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	学校関係者評価
1 教育力の質の向上	(1) 授業の質の向上	(1)年度当初に各教科・各授業に対し「年間授業計画」を作成する。教科内で確認の上、教務、管理職でも確認のもと授業を進める。各学期終了後、実施内容、進捗、調査結果の状況など確認し、次学期に役立てる。 ・教科主体で公開授業、その後の反省会を行う。 ・授業アンケート（7月：1学期期末考査後実施）の結果を基に、各教員、教科内で検証、今後の対策を練る。 ・満足度調査（10月：2学期中間考査後実施については、係で分析の上、職員会議で報告。関係部署で検証の上、今後の課題を検討、全体で共有する。	(1)「年間授業計画」の最終実施状況で、計画通りの科目総数が85%以上達成していること。 ・授業アンケートの総体平均値が73点となること。	(1)「年間授業計画」の計画通り実施出来た科目数は、総数162科目中139科目、85.8%(昨年度87%)の達成率であった。(○) ・授業アンケートでの総体平均が72点で、昨年度と同様。目標値に1点届かなかった。ただ、質問の中で特に評価の高かった項目としては、昨年に引き続き「説明の話し方」や「生徒と教員の関係」が揚られ、今年度はそこに「指示の仕方」も加わった点は一定の収穫だと思われる。(△)	概ね良好と評価できる。(○) 概ね良好と評価できるが、今後更なる努力を期待する。(○)
	(2) 4コース体制の充実と見直し事項の検討	(2)学年会議、コース会議を通じて、コース内での取り組み内容を吟味する。実施後、見直し検討に向け、課題を見つける。	(2)高校生活満足度調査の「学校生活の有益性充実度」に関する質問の肯定的回答率がそれぞれ60%であること。	(2)高校生活満足度調査の「学校生活の有益性、充実度」に関する質問の肯定的回答率は、「有益性」：39%(昨年度41.9%)、「充実度」：55.9%(昨年度66%)とともに減退。この結果も参考に4コース制3学年が揃う平成28年度に見直しを実施したい。(×)	日々有益であり、充実していると実感できる学校生活を期待する。(×)
	(3) 課外活動・クラブ活動の充実	(3)生徒会と各クラブが連携し、クラブ紹介の方法を、回数も含め工夫する。また積極的にクラブ体験を受け入れるようにする。 ・課外活動についても、他の年間行事を踏まえた上で、教務、生徒会等の部署で検討の上、充実させる。	(3)クラブ入部率48%以上であること。	(3)第70回大阪高等学校総合体育大会女子総合成績優良校では第7位(昨年度11位)で表彰を受けたが、今年度のクラブ入部率は、45.6%で、昨年度より3.3%増加。ただし目標値(48%)には今一歩届かなかった。(△)	活発な課外活動、クラブ活動の活性化を望む。(△)
	(4) 進学実績の向上	(4)進路指導部と、特に特別進学I・IIコースを中心に進路指導計画を策定の上、各教科との連携を基に指導を行う。	(4)卒業生徒の進路決定率100%。 ・関関同立と産近甲龍以上50名以上の合格。	(4)進路決定率96.9%(昨年：94.4%)。(△) ・関関同立と産近甲龍以上39名合格(昨年：28名)。(△)	生徒の満足する進路決定と進学率の向上を期待する。(△)
	(5) 学園総合力の向上	(5)学園内大学・短大・幼稚園との連携に関する担当者会議を行い、これまでの取り組み内容をベースに、課題や改善点を見だし、より良い取り組みを作り上げる(併設校の入試説明会、保育進学コース授業など)。	(5)実施内容と生徒の満足度を基準とする。	(5)内容、生徒の感想とも概ね良好。(○)	良好と評価できる。(○)
2 組織拡充	組織拡充	・入試広報部と運営委員により構成される「入試委員会」で対外的な募集・広報活動計画と校内における入試説明会のプランを策定し、全教職員で内容を共有することで、学校運営への参画の意識を一つにする。	・学校・入試説明会、体験入学の参加人数が昨年度(2,124名)を上回ること。 ・新入生300名、生徒総数900名。	・今年度の学校・入試説明会、体験入学の参加人数は、計2,699人で昨年度比575人増であった。(○) ・今年度当初の全校生徒数は1060名で、昨年度の917名より143名増(新入生：379名入学)となった。今年度の転退学率は2.2%で、昨年度より0.1%改善した。(○)	良好と評価できる。(○) 良好と評価できる。(○)
3 教育環境の充実	校内生活および学習環境の整備	・5月～9月にかけて高校2号館内の教室備品の引っ越し作業を行う。また10月～3月にかけて高校2号館を解体する。 ・日頃から「ものを大切にできる意識」、「省エネの意識」を、教職員、生徒の間で話題にする。	・計画事項を無事完了すること。	・計画事項を無事完了。(○)	良好と評価できる。(○)
4 地域貢献	(1) 美化活動の実践	(1)生徒会美化委員会が立案、主催する、本校の伝統である「美化ボランティア」活動を、今年度の生徒数・クラス数に見合う形で実施する。1回目は全校生徒(希望者)対象で6月中旬実施、2回目は1,2年生全生徒対象で10月下旬を予定する。	(1)計画通り実施する。	(1)計画通り実施できたが、次年度はさらに良いものを目指し、検証が必要。(○)	良好と評価できる。(○)
	(2) 地域行事への参画	(2)本校教員が担当する歴史・理科の市民講座を実施する。 ・卓球・バレーボールの種目で、地域のこどもたち参加のスポーツ教室も実施する。 ・地域の市民フェスティバルに参加する。 ・地域の防災マップ作りへ参加する。	(2)予定通り参加する。	(2)予定通り参加。(○) 市民講座は歴史15名、理科16名参加。 スポーツ教室は卓球6名、バレーボール18名参加。	良好と評価できる。(○)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析

【教育活動等】

- ・生徒による授業アンケート（平成27年7月実施）の結果では、目標としていた73点に到達せず、昨年と同点の72.0であった。
- ・「授業研究」については、一昨年度から制度を見直し、これまでの形式を基に各教科主体で取り組んできたが、1月の教員を対象とした「学校診断（自己アンケート）」によると「公開授業等の「研究授業」を行い、教科会議等を通じて、授業のスキルアップを図っている」との問いに肯定的な回答をした割合は、昨年度より3.9%高い36.0%となっている。今後も継続して、教科内での話し合いを重ね、内容や形式を改善し、成果の上がる取り組みにしなければならない。
- ・4コース制の取り組みとコース制の機能についての問いに対する教職員の意識については、昨年度より12.4%低い48.0%となった。平成27年度には新コース制の3学年が出そろい、今後に向けて教育内容、教育課程等全般に関する検証、見直しが必要であったが、着手出来ていないので、次年度取り組みたい。
- ・学習指導に関する教員と保護者のアンケート「学校評価」の比較では、指導計画に基づき、着実に学習指導を行っている割合は、教職員の場合、82.0%で、昨年度より0.9%向上したが、保護者の受け止め方は86.7%で、教職員の数値を大きく上回っており、高い評価をいただいている。「学習到達度の低い生徒に手厚い指導を行っている」回答は、教職員10.9%、保護者5.0%昨年度より減退し、教職員：74.0%、保護者：86.7%。逆に「学習到達度の高い生徒に手厚い指導を行っている」回答は、教職員7.7%、保護者1.6%昨年度より向上し、教職員：70.0%、保護者：93.3%となっている。家庭学習の状況は、生徒の「満足度調査」、保護者の「学校評価アンケート」の双方を照らし合わせてみても、あまり家庭学習をしていない状況が浮き彫りになっている。以上のデータを基に、次年度への課題を確認したい。

【課外活動・クラブ活動等】

- ・高校生活満足度調査では、今年度のクラブ入部率は、過去最高の45.6%で、昨年度より3.3%向上。はじめて45%台を超えた。

【その他】教員と保護者の回答から読み取れること

○教員〔平成28年2月実施分〕

- ・組織・運営面での評価は、昨年度の反動か、評価が下がった。
- ・生徒指導に関しても、同様に、昨年度に比べ評価が下がった。
- ・朝読書の有効性、教育課程の活用については、評価が大きく向上した。

○保護者〔平成28年1月実施分〕

- ・建学の精神や校訓についての認識度が低下した。
- ・生徒指導に関しては、マナーや問題行動の指導を含め、一般的に高評価、好意的ではあるが、昨年度と比べるとやや評価は減退傾向であった。
- ・進路指導や進路相談に関しては、いくつか要望があり、課題を頂いた。

学校評価委員会からの意見

- ・今年度も多くの項目で評価できるものがあり、学校自己評価についても問題なしとなった。
- ・ここ数年生徒数も増えたが、それぞれのコースの教育内容を見直し、各コースが学習・進路面と課外活動のバランスを一層図れるよう工夫し、今以上に活気ある学園を目指してほしいとの意見があった。
- ・また地域住民の委員からは、生徒の進路意識の向上、堅実な進路目標を掲げている生徒が増えたように感じるとの意見と、引き続き挨拶をする生徒が多く見られ、服装面でも大きな乱れは少なくなったとの意見があった。
- ・生徒収容に関しては、昨年度（平成26年度）に続き、300名以上の入学生を迎えることができたことは、評価に値する。また入試説明会や体験入学の参加人数が増加している点も評価された。
- ・「保護者アンケート」の結果で、「建学の精神：感恩」の認知度が下がったことは気になる点であるとの指摘があった。
- ・地域貢献の項目では、歴史・理科の市民講座や卓球・バレーボールの種目での地域の子どもたち参加のスポーツ教室などの取り組みに対する評価は大きかった。

最後に、今年度多くの項目で評価できることがあったが次年度に向け、今回の提言や意見、課題を教職員はもとより、保護者や地域の方にも協力を求めながら、目的達成に向け努力、協力する必要があるとのまとめがなされた。

